

## この国で最もチャームな図書館！ 小布施町立図書館「まちとしょテラソ」に見る まちづくりと図書館の関係性

昨年の4月にオープンし、近現代図書館に対する一つの問題提起としても注目を集めた『武雄市図書館』（佐賀県武雄市）。指定管理者制度を導入し、『TSUTAYA』でおなじみのカルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC：東京都）に運営を委託することで、運営費削減はもちろん、開館時間を従来より4時間も増やし、年中無休、かつ、本を借りるとTカードにポイントまで貯まるなど、これまでの公共図書館サービスの常識を覆したとされています。同館内では、CD・DVDの有料レンタルができるほか、雑誌・書籍の販売コーナーやコーヒーチェーン店『スターバックス』も併設され、ゆっくりとコーヒーを飲みながら読書を楽しむこともできます。



出典：武雄市図書館

ほかにも、図書機能を軸とした複合型文化施設『武蔵野プレイス』（東京都武蔵野市）や、PFIを導入して建設されたハイブリッドなライブラリ『まんのう町立図書館』（香川県仲多度郡）、また、中古の海洋コンテナの再利用で地域活性化を目指す『わいわい!!コンテナ』（佐賀県佐賀市）など、全国を見渡しても話題の図書館が続出中…。というわけで、図書館を取り巻く環境が今、面白いことになっています。いずれも図書館をまちづくりの“核”と捉え、ハードのデザインだけではなく、地域の特性を活かしたワークショップの開催など、コミュニティデザインを意識したソフトの充実が特徴といえるのではないのでしょうか。



出典：まちとしょテラソ

これらの先駆けともいえるのが、2009年にサービスを開始した小布施町立図書館『まちとしょテラソ』（長野県）です。写真左のとおり、とてもチャームな空間デザインですが、それよりも、その使われ方に大きな特徴があります。館内は大きなワンルームのようなレイアウトになっていて、一部の配架できない貴重本の閲覧室等を除き、書架スペースも学習スペースも児童コーナーも、飲食コーナーもすべてがシームレスにつながり、通常なら図書館の一室を使って行われるワークショップや展覧会等も、このオープンな空間で行われています。

「図書館ってどんなところですか？」と聞かれて、大抵の方は「静かな空間」をイメージされるのではないのでしょうか。最近の図書館改築事

例をみても読み聞かせブース等の設置など、特に“音”には最善の注意を払うのが定石のように思われます。

しかし、『まちとしょテラソ』では前述のような使われ方のため、館内には静かに本を読んだり勉強したりする人がいる一方で、気軽におしゃべりをしたり、アート系のワークショップが開催されていたり、親子で絵本の読み聞かせをしていたり、カフェコーナーで食事している人がいたり…と、様々なニーズが一つの空間に共存することになります。

以前、「部外者を社内に入れる企業は作業効率が440%上がる」というUCLAの調査結果を読んだことがあります。異なる活動や人に刺激を受けることで雑然とした中でも集中力が高まり、作業効率が上がるという論旨だったと思います。この調査結果の信憑性は別として、例えば自宅よりもカフェで勉強した方が、はかどった経験ってありませんか？ 近年、ノマドワーカーが増える理由も直感的には理解できますよね？ だから、このような図書館運営も合理的！ とまあ、そんな強引な結論にはしませんが、少なくとも、公共図書館として画期的な空間設計、柔軟な運営スタイルが、町民相互のタイムシェアリング発想（時間帯による住み分け）を引き出し、結果として、利用者の様々な活動支援や、世代間交流など、現代の「地域活性化」に求められる自由で持続的なコミュニティ形成に大きく寄与していることは間違いありません。

今後公共図書館や『まちライブラリ』をはじめとする図書機能を軸とした試みから、「まちづくり」を見直す動きがさらに強まっていくのではないのでしょうか。

(2014/3/28 コンサルティング部)



まちとしょテラソ

長野県上高井郡小布施町小布施 1491-2

OPEN：9:00-20:00

CLOSE：火曜日（火曜日が祝祭日の場合、開館し、振替日はもうけない）